

第 27 回兵庫県医療審議会保健医療計画部会 議事概要

- 日 時：平成 30 年 3 月 12 日(月)15:00～17:00
- 場 所：兵庫県医師会館 6 階会議室
- 出席委員：足立 光平 (兵庫県医師会副会長)
笠井 秀一 (兵庫県薬剤師会会長)
守殿 貞夫 (兵庫県病院協会会長)
北野 美智子 (兵庫県連合婦人会会長)
竹内 徹 (全国健康保険協会兵庫支部長)
太城 力良 (兵庫医科大学副理事長)
長尾 卓夫 (兵庫県精神科病院協会会長)
中野 則子 (兵庫県看護協会会長)
西 昂 (兵庫県民間病院協会副会長)
西尾 久英 (神戸大学大学院医学研究科教授)
浜上 勇人 (兵庫県町村会理事・香美町長)
藤澤 正人 (神戸大学医学部附属病院長)
渡部 武 (兵庫県歯科医師会副会長)
- 代理出席：細見 和代 (兵庫県精神科病院協会理事)
- 欠席委員：丸尾 猛 (県立こども病院名誉院長)

- 次 第

1 開 会

2 兵庫県健康福祉部長あいさつ

3 議事と結果

(1) 協議事項

- ①特例診療所（医療法施行規則第 1 条の 14 第 7 項第 1 号から第 3 号）についてはまなレディースクリニック（周産期 13 床：明石市大久保町）の設置することを了解。
- ②特例診療所の制度改正に伴う兵庫県医療審議会運営要綱の一部改正について
特例診療所は計画記載なしで設置できることとなったが、今後、設置にかかる意見については、計画部会で行うことで了解し、要綱改正も了解。
- ③医療介護推進基金事業（医療分）について
H30 の医療介護推進基金の内容について了解。
- ④兵庫県保健医療計画改定について
意見をいただいた箇所について、修正を足立部会長と調整のうえ、空地

会長が確認し答申をいただくことで了解。

4 議事内容

○議事（１）③について

委員： 病床機能転換推進事業は今年は7億円であるが、H29はどうだったか。

事務局： H29も予算は7億円であったが、8月の計画部会で5件1.7億円の申請があった。

現在、事業実施中である。また、申請前の相談も22件あり、診療報酬の改定等の様子見等もあると聞いていることから、H30に申請があると考えている。4月から募集を開始し、8月の計画部会で意見を伺いたい。

○議事（１）④について

委員： ICTを活用した医療介護の情報共有はどのようなものか？

事務局： 医師会と一緒に全県転換している、医師を中心とした多職種が連携して在宅患者のバイタル情報を共有できるシステムである。

委員： バイタルリンクは、がん疾病でも対応は可能か？また、勤務環境改善支援センターはどのような内容を取組んでいるのか？

事務局： 在宅患者に対応しており、疾病別のシステムではないので対応可能である。また、P55に記載しているような、病院の実態調査と研修なども行っている。

委員： 準圏域の設定はどこで決めて行くのか。地域で決めるのか。また、圏域を超えた連携が例えば、三田と神戸など必要になることは想定されるのか。

事務局： 県で想定案を示しているが、地域の意見を踏まえて決定していきたい。圏域で議論した上での案であれば、圏域の意見を尊重して検討したい。

委員： 3次救急はその圏域だけで完結しない。隣接圏域も対応しているので、表は点線で表記してもいいのでは、また、ヘリ搬送は、消防ヘリ、ドクターヘリと連携して対応できない時はお互いにカバーしている。その旨も記載してはどうか。

事務局： そのように記載していきたいと考える。

委員： 医師の偏在対策は緊急課題であり、県の地域医療対策協議で議論することになっているが、どのような体制で検討していく方向か。

事務局： 県の医師派遣等を検討する医療審議会の地域医療対策部会や活性

化支援センターでの派遣調整会議や新専門医制度の都道府県協議会など様々なところで、それぞれの構成員に検討してもらっている。今後の国の検討状況も踏まえ、実効性のある検討協議体制を今後相談して組織したいと考えている。

委員： 救急搬送で病院が応答できない時がある。手術情報も共有できないか。

事務局： E M I S の情報共有に手術情報はない。個別搬送モードで対応している。昔から手術情報も入れれないかと意見はあるが、病院サイドが対応できないので、なかなか実現しない状態である。

委員： 地域医療構想を進めるには、慢性期の数が減っているので、在宅医療での訪問看護の確保が重用だと思うがどのように進めていくのか。

事務局： 訪問看護の確保のため、規模拡大し新人を確保した場合の人件費や設備費の補助や病院から訪問看護ステーションへの出向制度など確保策を来年度が実施していく。

以 上